

LA VIDA EN MÉXICO

～ルイス・バラガンの建築とボランティア活動～

TAKU MINAGAWA Vol.7

□学校での勉強

3月から新学期が始まり、学校では現在 Español 7(レベル7)のクラスを受講しています。このレベルではスペイン語の学習内容がより専門的になり、いかにプロフェッショナルな文章の作成をするか、そしてプレゼンテーションをするかと言う技術が求められます。いわばこれまで学んで来たことの総復習として、より一歩進んだ内容をマスターする事が目的となっています。クラスも6人と少人数生で、授業内では1つのテーマに対して他の学生とディスカッションする事も多くあります。

□世界遺産でのボランティア

学校でスペイン語を学ぶ一方、より実践的なスペイン語の習得や経験が出来るよう、ルイス・バラガン財団でのボランティア活動を始めました。



〔バラガン自邸の外観〕

ルイス・バラガン(1902-1988)はメキシコを代表する建築家で、1980年に建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞を受賞しています。モダンで色彩豊かに表現された建築はメキシコらしさを感じさせるものであり、彼の設計したメキシコシティの自邸は2004年に世界遺産に登録されました。日本でもテレビのCMや番組で紹介されて

いる事もあるので、知っている方も多いかと思えます。バラガンの死後、この住宅は美術館として公開され、日々たくさんの方が世界中から見学に訪れます。ボランティアの活動としては来訪者への見学案内として1時間ほどのツアーを開催し、バラガンの設計に込めた想いや空間の魅力を説明しています。日本人の来訪者も多いので日本語での説明はもちろんのこと、スペイン語、そして時には英語と、状況に応じて3カ国での説明を行っています。即座にスペイン語-英語の切り替えを頭の中で行うのが難しいのですが、語学習熟の為の良い実践になっています。



〔上下階を繋ぐホール〕



〔庭を望む大きなリビング〕

LA VIDA EN MÉXICO

～ルイス・バラガンの建築とボランティア活動～

TAKU MINAGAWA Vol.7



〔世界中から見学に訪れる人々〕

美術館は毎日 60～100 人、多いと 200 人ぐらいの方が訪れますが、他にボランティアとして参加しているメキシコ人の学生と共に分担してツアーを開催しています。

ロバラガン自邸の魅力

一口に住宅と言っても、1000 m²以上ある空間は大変広く、それぞれの空間にバラガンの建築の魅力を感じる事が出来ます。居住空間と庭との繋がりを重要視したバラガンは、各室において庭を望む豊かな関係性を設計しています。鮮やかな壁の色彩はメキシコの文化を表すものであり、繰り返し改築されたと言うそれぞれの空間には、生涯をかけて建築と向き合ったバラガンの飽くなき探求心を感じる事ができます。



〔バラガンの寝室〕



〔屋上のテラス〕



〔坪の庭〕

ボランティアの活動は週に 3、4 回のペースで行っていますが、訪れる度に新しい発見があります。バラガンは日本に訪れた事は無いものの、書籍などから日本建築や日本の庭園を深く学び、それらの影響が彼の建築にあった事は驚きであり、日本人として嬉しく感じました。

ロ次回に向けて

今回は学校でのスペイン語クラス(最後に迎える最上級クラス)の様子と、バラガン自邸以外のバラガン建築の魅力をお伝えできればと思います。